

須賀川市歴史文化基本構想 概要版



平成31年3月
福島県須賀川市

須賀川市歌

作詞 菅野陸郎
補作 勝承夫
作曲 平井康三郎

一、山はさみどり 宇津峰の
空にかがやく 平和の光
みのり豊かに 産業興る
希望の都 意気の町
幸あれ永久に 須賀川市

二、春は愛宕に花を賞で
秋は乙字に紅葉をうたう
牡丹花咲き 松明燃ゆる
歴史の都 詩の町
讃えよ永久に 須賀川市

三、清き釈迦堂 阿武隈の
水も睦みて 集まるところ
息吹新たに 躍進誓う
文化の都 自治の町
栄よ永久に 須賀川市

これからも市民の皆様とともに 須賀川市の歴史文化を育んでいきます

市民、地域、行政が、生まれてきた土地に誇りと愛着を持つことの素晴らしさを伝え、その価値を共有し、手を携えて歴史や文化の保存・活用に取り組んでいくことが、次世代の子どもたちが生き抜く力を培う源泉になるものと考えます。

心と心、手と手をつなぎ、歴史や文化を守り伝えるとともに、これらを生かしながらまちづくりへ広げていきましょう。



歴史文化基本構想とは

地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて総合的に保存・活用するための構想であり、地方公共団体が文化財保護行政を進めるための基本的な構想となるものです。

【策定方針】

- ①文化財保護施策を、一貫性を持って推進する。
- ②未指定文化財を視野に含め、文化財保護施策の充実を図る。
- ③文化財とそれをとりまく環境の一体的な保全を図る。
- ④個々の文化財の価値や性質を十分踏まえる。
- ⑤文化財保護に関する情報を、多くの関係者と共有する。

【対象範囲】

「歴史文化」とは、文化財とそれに関わる様々な要素とが一体となったものを指す。
文化財に関わる様々な要素とは、文化財が置かれている自然環境や周囲の景観、文化財を支える人々の活動に加え、文化財を維持・継承するための技術、文化財に関する歴史資料や伝承等であり、文化財の周辺環境と言い換えることができる。

文化庁「歴史文化基本構想」策定ハンドブックより抜粋

構想策定の目的と効果

【構想策定の目的】

本構想は、本市が持つ歴史を視座に、市内各地域に存在する指定・未指定の文化財等を「歴史・文化資源(=地域の宝)」と位置づけ、それらを明らかにすることを通し、地域に住む人々が誇りと愛着を持ってこれらの保存・活用に取り組むとともに、歴史や文化を生かしたまちづくりを進めていくための長期ビジョンとして策定しました。

【期待する4つの効果】

- ①地域に息づいた歴史・文化資源に対する市民からの情報提供や市民との意見交換などを通して、市民による歴史・文化資源の保存・活用への理解や愛着を深めてもらう
- ②市域全体の歴史・文化の特徴を顕在化させ、ストーリー性を持たせた枠組みを設定することにより、歴史や文化を通じた様々な表情を持つまちとしての発信力を高める
- ③歴史・文化資源の保存・活用の方針を明確にし、関係部局で連携・協力を図ることで須賀川ならではの歴史・文化資源を生かしたまちづくりを推進する
- ④構想の策定を通して明らかにされた歴史・文化資源を、教育、防災、観光等の様々な施策に生かす

須賀川市の魅力～自然・環境から見る特徴～

<地形・地質>

本市は東西に細長い市域を有し、地形・地質の特徴から西部・中央・東部にわけて見る事ができます。西部地区は、第四紀初頭に羽鳥湖付近から噴出・流下した石英安山岩質凝灰岩の堆積面を江花川などが侵食し形成された丘陵・氾濫原と、奥羽山脈の一部である急峻な山地に大別できます。中央地区は、白河-盛岡構造線に沿って北流する阿武隈川と、その川沿いの「阿武隈川谷」と呼ばれる台地により須賀川盆地が形成され、その地質は深成岩(花崗岩)を基盤とし、白河層が低い丘陵を構成しています。東部地区は、阿武隈川沿いに小起伏の台地段丘と丘陵地及び阿武隈高地から成り、川沿いの深成岩から高度が上がるにつれ、洪積層、変成岩層、深成岩層となります。



館ヶ岡磨崖仏などの花崗岩を彫り刻んだ磨崖仏が市内に点在する

<気候>

年平均気温は約12℃で、年間降水量は1,100～1,300mmと少降水量地域に位置します。

夏に降雨が多く、冬は降雪が少ない太平洋型の温暖な気候に属しますが、冬季には市西部地域の奥羽山脈から強い季節風が吹くのが特徴です。

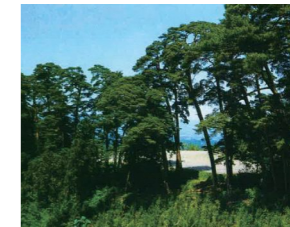


国指定史跡宇津峰は阿武隈高地に連なる

<植物>

温帯の落葉広葉樹林帯に属し、市域北部中央の阿武隈川の標高は230m、市西部奥羽山脈の八幡岳は標高1,102mと地形も複雑であるため、多様な自然環境が存在し、植物の種類も豊富です。

市街地を取り囲む平地・低地には耕作地、水田雑草群落、畑地雑草群落が広がり、東部地区の丘陵地にはアカマツ群落やクリコナラ群落などが分布しています。西部の丘陵地には常緑針葉樹を含むコナラ群落などが広がり、さらに奥羽山脈にかけては主にカスミザクラコナラ群落、ブナミズナラ群落が分布しています。湿地には、シジャクモ、ミクリといった環境省レッドリストの選定種も見られます。



市の木 アカマツ

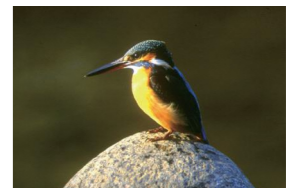


市の花 牡丹

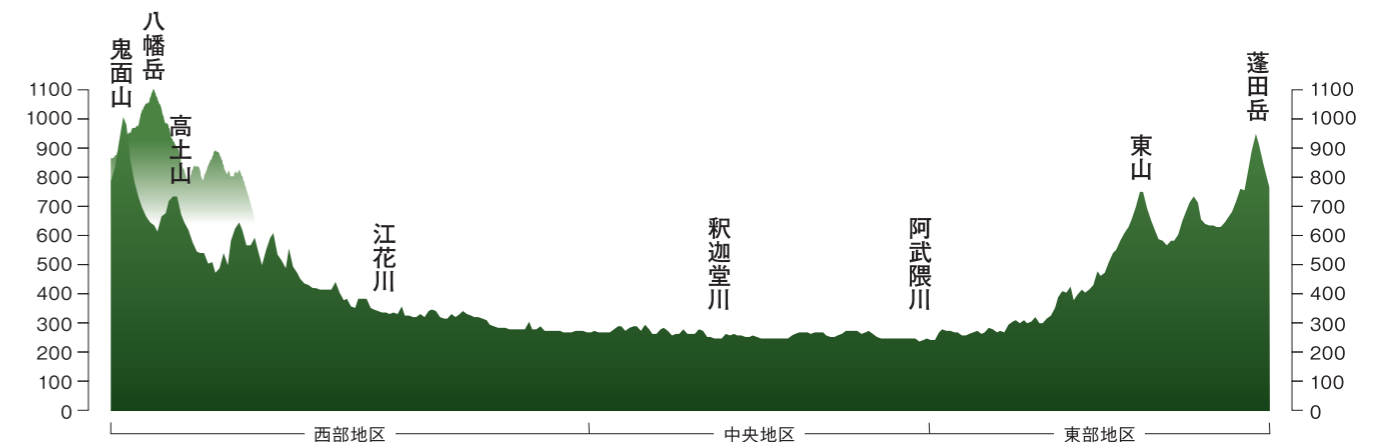
<動物>

植物と同様に多様な自然の中、種類も豊富です。

市街地や周辺の平地・耕作地で見られるサンバや平地から低山地で見られるトウホクサンショウウオ、アカハライモリ、また、タカネトンボ、マダラニワトンボ、オオムラサキ、ヒメギフチョウ、ゲンゴロウ、ガムシなど、環境省のレッドリスト選定種が生息しています。



市の鳥 カワセミ



※垂直方向は水平方向の10倍で表示した

須賀川市の魅力～歴史・文化から見る特性～

本市は、古くから南北軸に幹線となる街道が通り、会津や浜通りにもつながる街道と交わる交通の要衝にあり、政治、経済、文化の中心として栄えました。

古代から現代に至るまで「みち」との関わりの中で「まち」が形成され、交流が盛んになることで様々な「ひと」と「ひと」の結びつきが生まれ、俳諧などの文化が育まれました。

一方で、自然豊かな田園地帯を背景に、伝承されてきた祭礼や年中行事、板碑などの石造物が数多く残され、「さと」に息づく「いのり」ともいうべき心が、大切に守り育てられています。

本構想では、須賀川市の歴史・文化の特性を「みち」から広がる「まちづくり」、「くらし」を織りなす「ひと」、「さと」に息づく「いのり」の3つにまとめました。

「みち」から広がる「まちづくり」

各時代の主要道が通った須賀川は、古代から現代にいたるまで「みち」との関わりの中で城下町や宿場町など、政治経済の拠点的形成しながら「まちづくり」を進めてきました。

古代、須賀川には、東山道(推定)が通り、浜通り地方や茨城県へ至る街道、会津へ至る街道が交わる位置にありました。

奈良時代には、陸奥国石背郡の役所である石背郡衙(栄町遺跡)やそれに関連する寺院(上人壇廃寺跡)、官人たちが住む集落(うまや遺跡)等が形成され、養老2(718)年、陸奥国から石背国が分離独立した際には、石背国の国府が置かれたと考えられています。

南北朝時代には宇津峰が南朝側、稲村城が北朝側の拠点となり、一年以上に及んだ戦いの後、宇津峰は落城し、岩瀬郡における南北朝の戦いが終結しました。その後、鎌倉時代から続く二階堂氏がこの一帯を支配し、戦国時代になると、戦いに備えた城館が各地に築かれます。

江戸時代、須賀川には奥州街道を始めとする多くの街道が通り、街道沿いには宿場が設置されました。なかでも須賀川宿は街道が交わる交通の要衝としてとして栄え、相楽家や市原家などの豪商たちが生まれました。江戸時代中期頃には「須賀川町会所」を拠点に、赤子養育を奨励するための「赤子養育金」の支給や生活困窮者への金銭や米の支給、長屋の改修など建築・土木工事を行うなど、現在でいう住民自治が形成されていたことがうかがえます。

特性を現すキーワード

- 東山道と石背国の成立(上人壇廃寺跡、栄町遺跡(石背郡衙)の設置)
- 奥大道と武士の進出(二階堂氏による領地支配、宇津峰、稲村御所、愛宕山城、須賀川城、長沼城)
- 街道と町人によるまちづくり(奥州街道、会津街道、須賀川町会所、住民自治、須賀川産馬会社、県立須賀川病院)
- 用水と産業の発展(前田川発電所、葉たばこ、製糸業)
- 高速交通網の整備とまちづくり(国道4号、東北縦貫自動車道、福島空港)



国指定史跡 上人壇廃寺跡

「くらし」を織りなす「ひと」

江戸時代の須賀川は、奥州街道と会津街道などの街道が交差する交通の要衝で、物資や人・情報の交流が盛んだったこともあり、人々のくらし向きや文化などに高い関心を示す土壌が生まれたと考えられます。

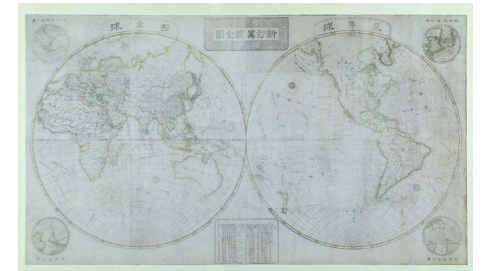
松尾芭蕉と相楽等躬、松平定信と亜欧堂田善といった「ひと」と「ひと」との結びつきによる文化の黎明期を経て、今日では「俳句のまち」として定着しました。また、本市出身の円谷英二監督が礎を築いた特殊撮影技術が国内外に大きな影響を与えています。

特性を現すキーワード

- 俳諧文化をつなぐ人々(相楽等躬、藤井晋流、二階堂桃祖、石井雨考、市原多代女、道山壮山、矢部楯郎、桔槔吟社)
- 「ひと」と「ひと」の結びつきが支えた「くらし」(須賀川郷学所、橋本伝右衛門など生産方、主要機関の設置)
- 芸術文化等の芽生えから発展へ(亜欧堂田善、須賀川絵のぼり、牡丹園、柳沼源太郎、首藤保之助、須田珙中、円谷英二、金山富男、円谷幸吉)
- 人生をかけて社会に尽力した人々(根本弥左衛門、遠藤猪右衛門、江藤長俊、小林久敬、佐久間亀五郎、服部ケサ)



散教第二舎(須賀川郷学所)の看板



市指定有形文化財(絵) 新訂万国全国 亜欧堂田善

「さと」に息づく「いのり」

自然豊かな田園地帯を背景に、伝承されてきた祭礼や年中行事、板碑などの石造物が数多く残され、「さと」に息づく「いのり」ともいうべき心が、大切に守り育てられています。

また、古くから人々は、「江持石」と呼ばれる石英安山岩質凝灰岩など、須賀川の大地を構成する岩石や鉱物を利用してきました。榊衝神社の社殿がある丘陵地には、通称「要石」と呼ばれる巨岩が露出しており、古墳時代、この石を神の宿る磐座として祭祀が行われていたとされています。鎌倉時代以降は、二階堂氏をはじめとする東国武士の進出などにより、阿弥陀信仰が須賀川全域に広まると、自然の岩壁などを利用した磨崖仏や阿弥陀三尊供養塔をはじめ、市内各地に多くの石仏や板碑が造られ、本市の石造文化の特徴を表すものとなっています。

特性を現すキーワード

- 大地と結びついた信仰(江持石、榊衝神社祭祀遺跡、板碑・石造三尊供養塔など石造文化)
- 各地に残る多くの古木や巨木
- 民話や昔話など、地域の人々の祈りや思いの継承
- 三匹獅子、田植え踊り、きうり天王祭など地域独自の祭礼や伝統芸能の継承
- 寺社と庶民信仰との結びつき



県指定重要無形民俗文化財 古寺山自奉楽

歴史・文化の保存・活用に向けての方針

基本理念

『歴史と文化とともに「つながり」「ひろがる」まち すかがわ』

「つながり」は須賀川市の歴史と文化を知ることなどを通し、人と人、心と心、手と手をつなぎ、力を合わせて未来の魅力あるまちづくりにつなげていく原動力

「ひろがる」は須賀川市の歴史と文化を通し、人から人へ、芽吹きから成長・発展へ、歴史に学び、文化を生かしながら、まちづくりの可能性を広げる推進力

古来より連綿と受け継がれてきた歴史や文化を後世に引き継いでいくうえで、最も基本となるものは、そこに住む人々が、身近な歴史や文化を市民共有の財産として「大切にしたい」と思う心であり、歴史・文化を保存・活用していくための原点ともいえるものです。

歴史や文化を生かしたまちづくりを進めていくためには、行政、市民、地域、民間団体、企業などがそれぞれの役割を認識し、主体的に、または連携して歴史・文化を生かしたまちづくりに取り組んでいくことが期待されます。

歴史や文化を生かしたまちづくりを一体的に進めていくためには、市内にある各種施設や多様な分野との横断的な連携、協力が不可欠です。

基本方針1

「大切にしたいもの」「大切にしたいこと」を守り育てる心の醸成

本市では、指定・未指定問わず、各地域の歴史や文化を現すもので、継続して保存・活用、継承されるものを「市民文化遺産」として認定し、学校教育や生涯学習などを通して次世代につなげていけるよう守り育てる心の醸成に努めます。

基本方針2

歴史・文化を生かしたまちづくりの仕組みの構築

行政と市民等が協働で歴史や文化を生かしたまちづくりを進めていくため、歴史・文化に係る情報発信と共有化に努めるほか、その保存・活用に係る新たな仕組みの構築に努めます。また、歴史や文化を生かしたまちづくりの担い手づくりを推進します。

基本方針3

適切な保存・活用に向けた体制整備と連携の推進

本市における歴史・文化を適切に保存・活用していくため、市立博物館などの施設の整備・充実と広域的なネットワークづくりに努めるとともに、各分野における関連計画や各種事業等との連動や関係機関との連携を図りながら、歴史や文化を生かしたまちづくりを推進します。

保存・活用指針

歴史・文化を生かしたまちづくりを進めていくためには、歴史や文化に関心を持ち、知ることが重要であり、人々との関係性の構築や、地域コミュニティの醸成などにつながり、結びついていくことを実感していく必要があります。

また、歴史・文化資源を生かしながら、その価値をより多くの人々と共有し共感していくことができるよう広がりを持った取組を進めていく必要があります。

本市では「知る」「つなげる」「生かす」「広げる」を、歴史・文化資源の適切かつ具体的な保存・活用のキーワードに位置づけ、各種施策を推進していきます。

歴史・文化の適切な保存・活用を推進するための各種施策

基本理念と基本方針に基づき、須賀川市における歴史・文化の適切な保存・活用により魅力あるまちづくりを進めていくため、「知る」「つなげる」「生かす」「広げる」をキーワードに、これら4つの取組が相互に関連しながら循環し、さらに成長・発展していけるよう各種施策を展開することを目指します。

歴史・文化を知る

- 歴史・文化に関する継続的な資料・情報収集と調査研究
- 歴史・文化資源のデジタルアーカイブ化
- 講演会や講座の開催、研究成果等の発表等の活動支援
- 学校教育や公民館、地域等との連携によるふるさと学習の推進

歴史・文化をつなげる

- 歴史・文化の体系化と活用
- 後継者育成に係る仕組みづくり及び映像による記録保存等
- 防災・減災及び防犯対策の推進
- 歴史・文化資源の永続的な保存を図るための拠点の整備・充実

歴史と文化とともに「つながり」「ひろがる」まちすかがわ

歴史・文化を広げる

- データベースの活用による情報発信
- 統一した案内板などのガイドサインの再構築等
- 多様な世代が歴史・文化に親しむ機会の創出
- 民間団体や自治体等との連携強化

歴史・文化を生かす

- 市民文化遺産制度の創設
- ヘリテージマネージャー（地域歴史文化遺産保存活用推進員）等の育成
- 市民歴史文化サポーター制度の構築
- 学芸員等専門職員の確保と連携
- 史跡やガイダンス施設等の整備及び保全管理の促進